

3 「子ども元気調査」結果の概要

※ はH30を上回る

[体カ合計点]

		小学校						中学校			高等学校		
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
男子	R1	28.8	35.0	41.7	46.2	52.3	57.7	31.8	39.7	46.8	50.0	54.7	57.3
	H30	28.9	35.9	43.0	47.2	53.1	58.5	33.3	41.2	48.0	50.4	55.4	58.2
女子	R1	28.5	35.1	42.7	48.5	54.7	59.0	43.0	48.9	52.1	50.4	53.2	54.0
	H30	28.9	36.3	43.0	48.4	54.7	60.0	45.1	50.3	53.4	50.9	52.8	53.2

- 前年度との比較 男子…（上回る学年）0（同値）0（下回る学年）1 2
 女子…（上回る学年）3（同値）1（下回る学年）8

■ 前年度を上回る学年の数は、男子0（H30：8）、女子3（H30：9）、全体3（H30：17）ともに減少した。

[体カテスト総合評価]

※ は全国平均以上

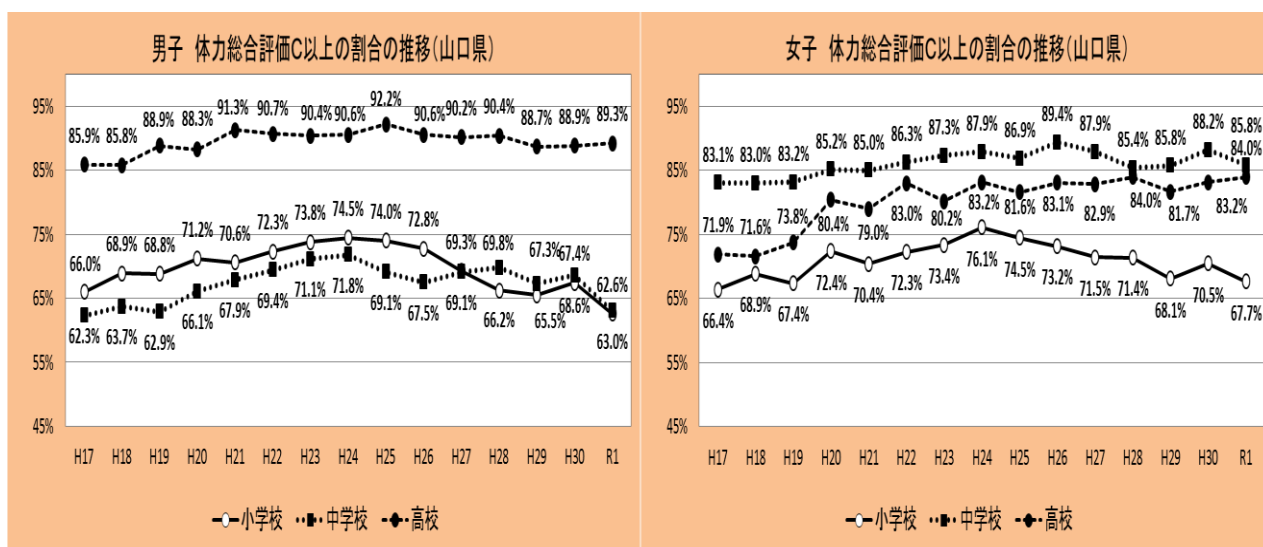
	総合評価A～Cの割合(%)					
	男子			女子		
	R1山口県	H30国	差	R1山口県	H30国	差
6歳(小1)	63.3%	77.4%	-14.1%	62.2%	76.0%	-13.8%
7歳(小2)	57.6%	76.5%	-18.9%	59.5%	78.4%	-18.9%
8歳(小3)	67.7%	81.1%	-13.4%	71.0%	81.4%	-10.5%
9歳(小4)	58.7%	76.7%	-17.9%	70.7%	81.9%	-11.3%
10歳(小5)	62.5%	81.6%	-19.0%	73.7%	85.6%	-11.9%
11歳(小6)	66.3%	82.1%	-15.8%	69.8%	85.8%	-16.0%
12歳(中1)	50.9%	66.5%	-15.6%	87.0%	93.6%	-6.7%
13歳(中2)	63.6%	82.8%	-19.2%	86.2%	94.8%	-8.6%
14歳(中3)	74.3%	87.9%	-13.6%	84.3%	91.7%	-7.4%
15歳(高1)	84.6%	86.2%	-1.6%	83.1%	83.6%	-0.4%
16歳(高2)	90.7%	89.7%	1.0%	84.9%	82.4%	2.5%
17歳(高3)	92.4%	89.6%	2.7%	83.9%	79.0%	4.9%

- 全国平均以上：16歳男女、17歳男女
 ■ 16歳男女については、8年続けて全国平均を上回った。
 ■ 全国平均以上の区分の数は、4区分で、平成30年度（4区分）と同数であった。

[種目の平均値と平成 30 年度全国平均値との比較 (T 検定結果)]

- 全国平均を上回っている ※ () は H30 の数
 - 【男子】 小学校 0 (0) 中学校 0 (0) 高校 8 (7)
 - 【女子】 小学校 0 (1) 中学校 0 (2) 高校 9 (1 3)
- 全国平均と同程度
 - 【男子】 小学校 2 (7) 中学校 2 (2) 高校 1 2 (1 0)
 - 【女子】 小学校 5 (7) 中学校 6 (1 5) 高校 1 2 (9)
- 全国平均を下回っている
 - 【男子】 小学校 4 6 (4 1) 中学校 2 5 (2 1) 高校 7 (5)
 - 【女子】 小学校 4 3 (4 0) 中学校 2 1 (1 0) 高校 6 (5)
- 小学校・中学校・高等学校とも、全国平均を下回っている種目が増加した。
- 長座体前屈、立ち幅跳び、ボール投げについては、すべての校種において全国平均を下回る学年が多い。
- 高校では、全国平均と同等以上、または上回る種目が多い。

[体力の状況の年次推移]



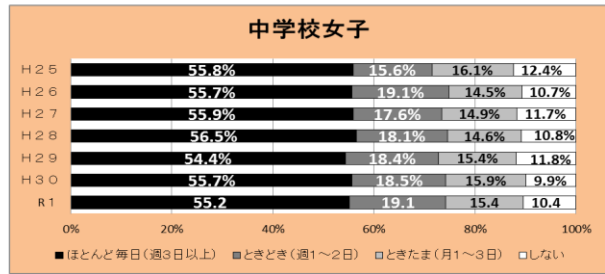
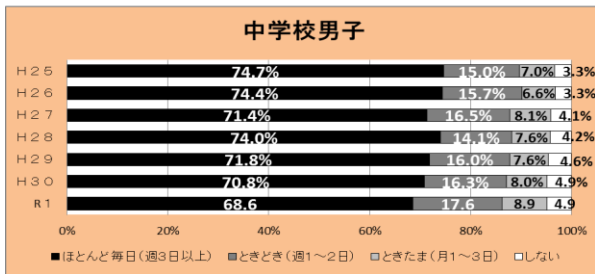
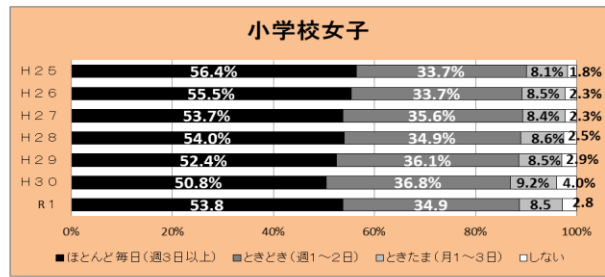
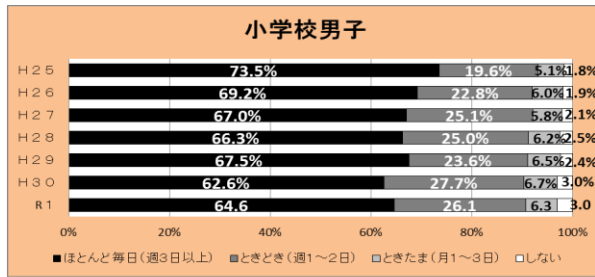
- 小学校男女、中学校男子は、平成 24 年度まで C 以上の児童生徒の割合に増加傾向が見られたが、その後は減少傾向にある。
- 中学校女子、高校男女は、緩やかな増加傾向が見られる。

体力の状況については、持久力には優れているが、一方で筋力や柔軟性、跳躍力、投力等を課題とする傾向が続いている。バランスのとれた体力向上を進めていくために、課題をしばり重点的な取組を推進していく必要がある。

<今後の具体的な取組>

- 各校の体力課題に応じた、小・中学校における年間をとおした取組
- 各学校の得意な項目を伸ばし、課題のある項目は改善する特色ある取組
- 新学習指導要領による、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善、充実をもとにした学校全体の取組

【運動習慣の状況】

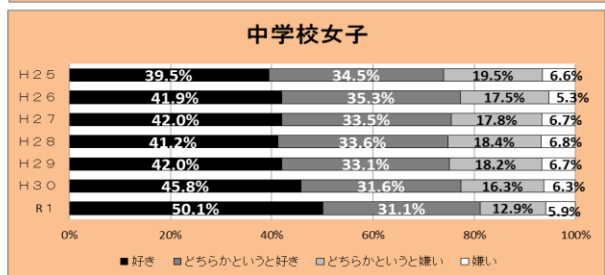
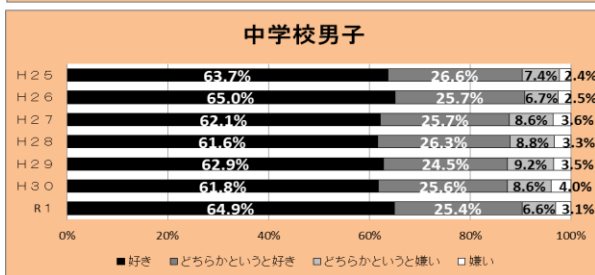
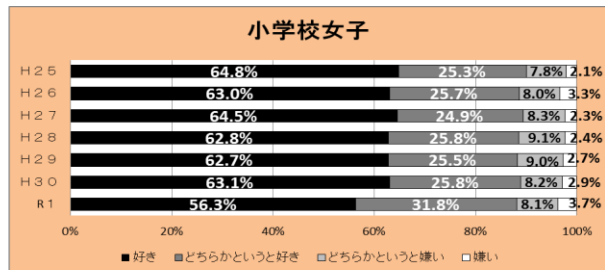
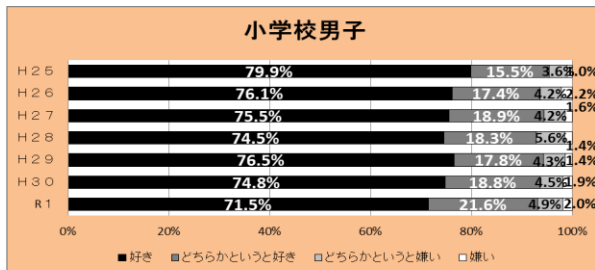


○体育の授業以外に運動や外遊びをしている児童生徒の割合

- 「ほとんど毎日運動や外遊びをしている」児童の割合は、小学校男子、女子ともに、減少傾向が見られる。
- 中学校女子では「ほとんど毎日運動や外遊びをしている」生徒の割合は、ほぼ同程度で推移しているが、「ときたま(月1~3日)、しない」生徒の割合がおよそ25%程度であった。

【運動に対する意識の状況】

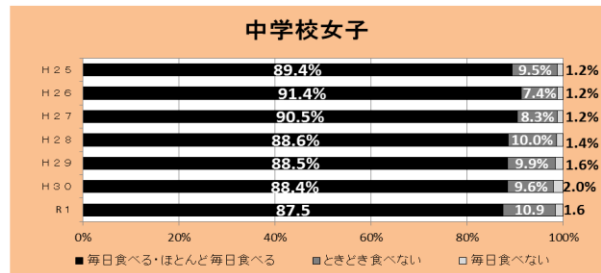
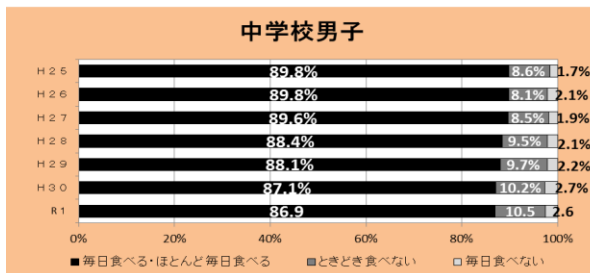
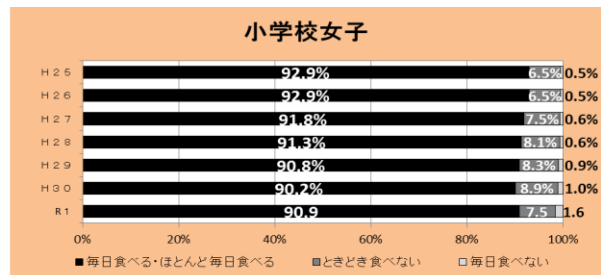
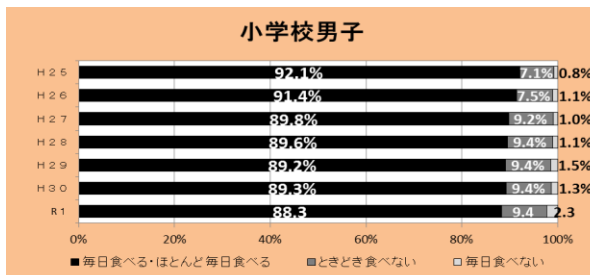
○運動や外遊び(体を動かしての遊び)が好きな児童生徒の割合



- 「運動や外遊びが好き」と答えた児童生徒の割合は、小学校及び中学校男子でおよそ60%~70%であり、中学校女子は緩やかに増加傾向が見られる。

「体育の授業以外に運動や外遊びをしている児童生徒の割合」は、小学校で減少傾向が見られ、体力の低下傾向に関係していると考えられる。運動習慣の形成、定着には、小学校低学年期からの運動経験が重要であることから、学校全体の取組として、低学年期からの外遊びや運動を行う必要がある。特に小学校時期の活動的な生活習慣を身に付けるためのきっかけづくりや外遊びや運動・スポーツの場やしかけづくり、体育授業の充実が重要であり、これまでの1校1取組等の改善、推進を図るとともに、運動の日常化に向けた取組や環境整備、新学習指導要領による授業改善が求められる。

○朝食を毎日食べている児童生徒の割合



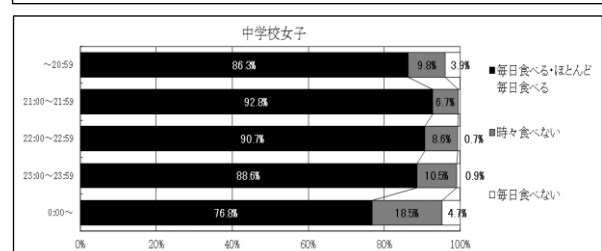
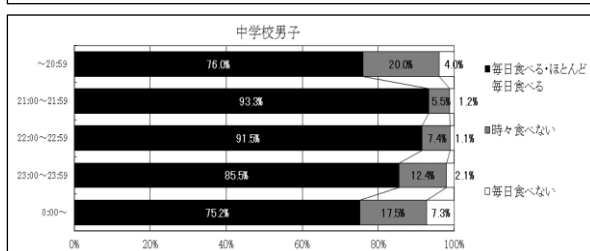
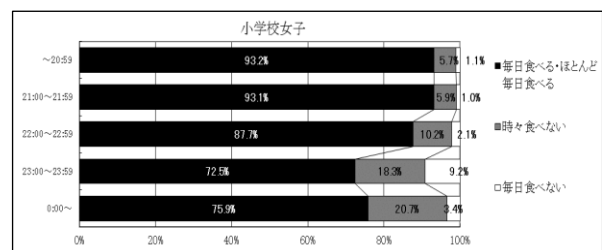
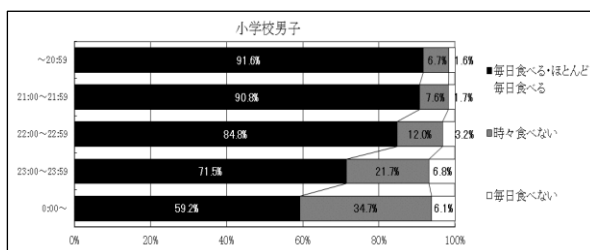
- 小学校男子、中学校男女における「時々食べない」「毎日食べない」割合が、増加傾向にある。
- 食べない理由としては、小・中学校ともに「食欲がない」「食べる時間がない」が多い。

朝食の摂取は、寝ている間に低下した体温を上昇させ、体が活動するための準備を整えるとともに、エネルギー源や栄養素の補給をし、充実した一日のスタートを切るために重要である。また、便通等の生活リズムの確立にもよい影響がある。

朝食摂取率の向上に向けては、就寝時刻が遅い児童生徒は朝食摂取率が低い傾向にあることから、早寝早起きの習慣づくりによって、食べる時間に余裕がもてるようにすることが必要である。

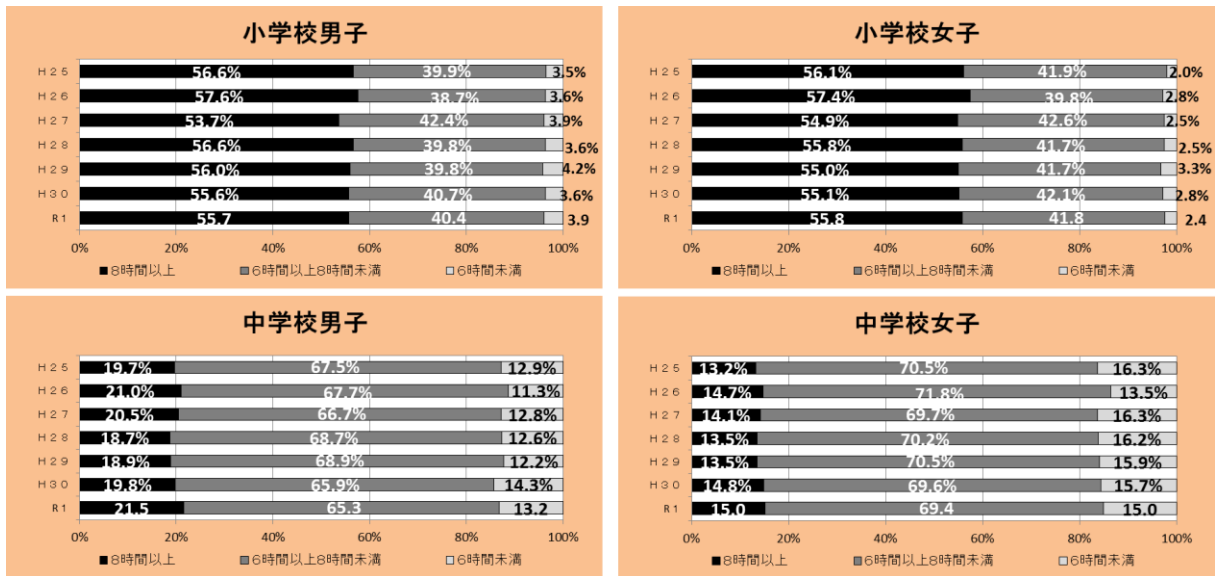
※就寝時刻が、小学生は 22 時、中学生は 23 時をこえる児童生徒は朝食を食べないことがある（「時々食べない」＋「毎日食べない」）割合が大きくなっている。

【就寝時刻（平日）と朝食摂取の関係】



【睡眠時間の状況】

○学校がある日の睡眠時間別の児童生徒の割合

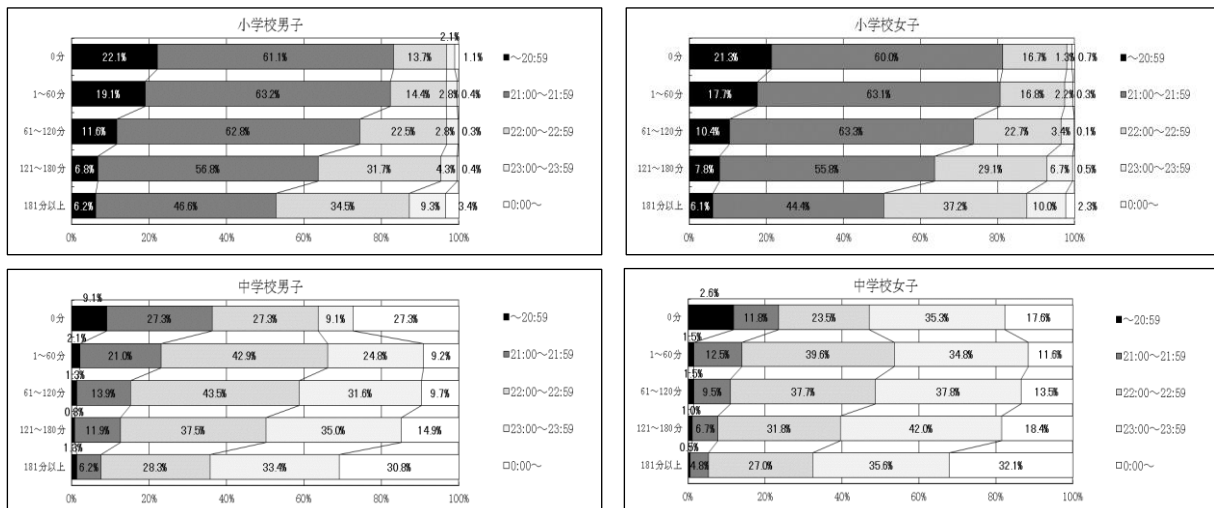


- 小学校では、睡眠時間が6時間未満の児童は少なく、8時間以上の児童生徒の割合が、5割を超えている。
- 中学校では小学校に比べ、6時間以上8時間未満の生徒の割合がおおよそ7割で大きな割合を占めている。また、男子に比べ女子の睡眠時間がやや短い。

睡眠には心身の疲労を回復させる働きをはじめ、体を成長させたり、情報を整理し、必要な情報を定着させたりするなど重要な役割があると言われている。規則正しい生活によって十分に睡眠を取れば、筋肉や骨の成長を促すだけでなく、脳が健全な状態で機能し、記憶力が高まり、心のバランスも保つことができると考えられている。

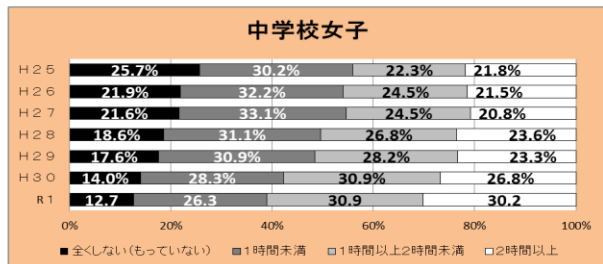
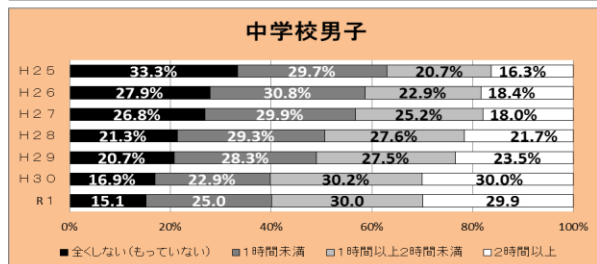
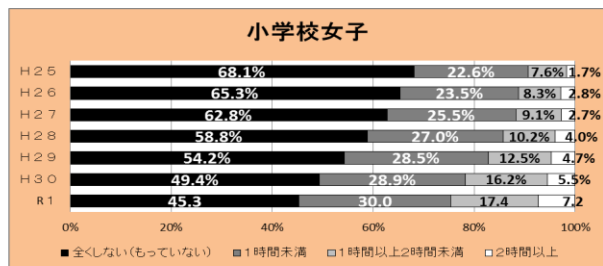
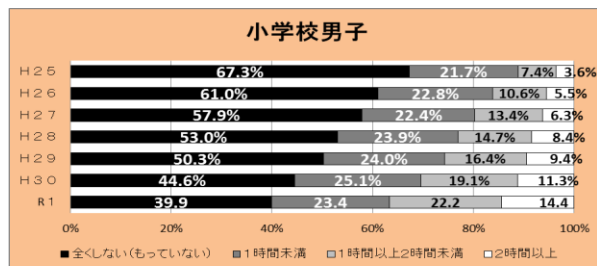
睡眠時間の改善に向けては、テレビ視聴やテレビゲーム等の実施時間が長い児童生徒が、就寝時刻の遅い傾向にあることや、寝る前に体や脳に刺激を与えるもの（スマホ、パソコン等の強い光等）を遠ざけることで、きちんとした睡眠を取ることができること等から、携帯電話、インターネット等も含めた利用の方法に対する指導が必要である。

【テレビ視聴・ゲーム実施時間と就寝時刻（平日）の関係】

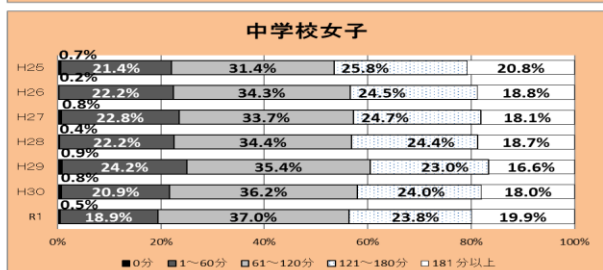
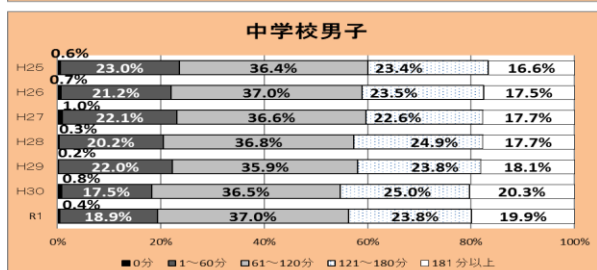
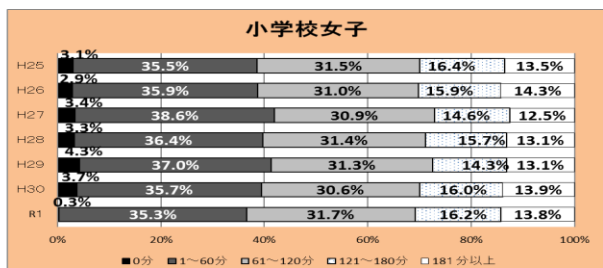
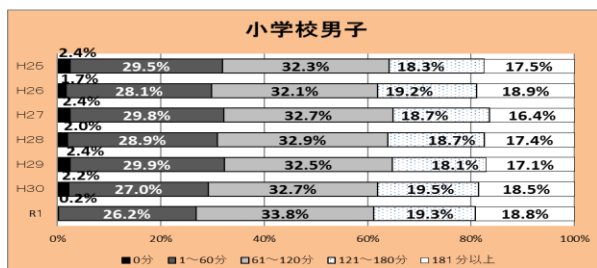


[インターネットや携帯通信、テレビやテレビゲーム等の接触状況]

○インターネットや携帯通信時間の割合



○テレビ視聴時間やテレビゲーム及び携帯ゲーム等実施時間の割合



- インターネットや携帯通信をしている児童生徒の割合は年々増加しており、中学生では2時間以上する生徒の割合はおよそ3割であり、増加傾向にある。
- テレビ視聴やテレビゲーム及び携帯ゲーム等を「181分以上」する児童生徒の割合は、およそ15%~20%程度で推移している。

インターネットや携帯電話の普及、娯楽性の高いゲーム機の出現等は、少なからず、子どもたちを運動遊びから遠ざける要因になっている。「子どもの体力向上のための取組ハンドブック」(文部科学省)では、テレビ(テレビゲームを含む)を1日3時間以上視聴する児童生徒は体力が低い(特に男子に顕著)ことが示唆されている。

体力の向上に向けては、体育授業や1校1取組の充実はもとより、よりよい生活リズムの形成・定着に向け、「早寝・早起き・朝ご飯」の取組を一層充実させることが必要である。そのためには、携帯電話や、テレビ、インターネット等の利用についても考え、望ましい生活リズムを定着させていくことが重要となる。